

施設名：北海道公立大学法人札幌医科大学附属病院 氏名：菅原ひろみ

【概要】

当院では、検査部門看護師が専属配置されていず、病棟や外来が検査を担当者している。看護師が検査に入れないときには、医師のみで検査・治療が実施される。医師のみで実施されることでのリスクとして、検査治療と同時に患者管理を行うことの困難性が存在している。適切に患者管理を行い、患者状態急変時に早期に対応するためにも看護師の配置は必須といえる。患者が安全に検査・治療を受けられることは医療の質の保証であることから、安全に検査・治療を受けられる体制を整備することが必要である。また、検査部門への専属看護師の配置は、多くの医師・看護師ならびに医療安全部が要望している事案である。今回、患者が安全に検査・治療を受けられる体制として、中央検査センターを新設し看護師の定数配置に向けた人員の確保を組織機構改正に提案したいと考え取り組んだ。

様々な部署からの要望案件であるが、今年度中央検査センターの新設には至らなかった。解決に至らなかった要因として、当院の経営状況がある。新棟建設に係る患者数の減少、医療材料比率の増加から収益では赤字となっている。今後既存棟改築も計画されていることから、経営上困難な状況が続くといえる。対策として人件費抑制が行われていることから、新規事業計画への人員採用は見込めない状況にあることから、平成 30 年 7 月の新棟移転計画にともなう病床再編成の余剰人員を、中央検査センターで活用する方向で検討したい。

【背景】

当院では、医学的診断・治療を目的に行われる血管造影、透視検査・治療は年間 6200 件、CT・MR・PET・シンチ検査など含めると 50000 件近い治療・検査が行われている（表 1）。平成 28 年度に血管造影・透視検査、治療に関連したアクシデント・インシデント発生件数は、アクシデント 9 件（レベル III b 9 件）、インシデント 5 件（レベル II 1 件、レベル III a 4 件）であった（図 1）。また、スタットコール・MET コール件数をみると、スタットコール 9 件（図 2）、MET コール 4 件（図 3）であった。スタットコールは、CT 検査 3 件・MRI 検査 2 件・血管治療検査 3 件・内視鏡検査 1 件であった。スタットコール件数は、平成 24 年度 3 件、平成 25 年度 2 件、平成 26 年度 4 件、平成 27 年度 6 件、平成 28 年度 9 件であり、年々増加傾向にあることから患者への侵襲が大きい検査・治療が行われているといえる。

血管造影、透視検査・治療は、侵襲的検査であることから、患者が安全に治療・検査を受けられる体制を構築することを重要課題と捉え、看護部安全担当副部長として、患者が安全に検査・治療を受けられるための中央検査センターの新設に向けて取り組んだ。

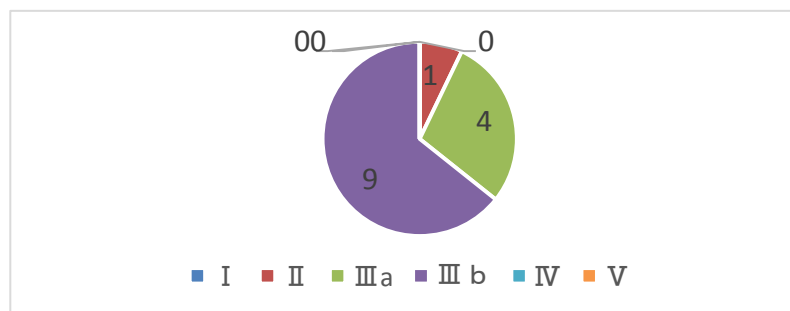


図 1 平成 28 年度透視・血管造影・CT・MR・PET・核医学検査インシデントアクシデントレポート件数



図2 スタットコール件数の年間推移

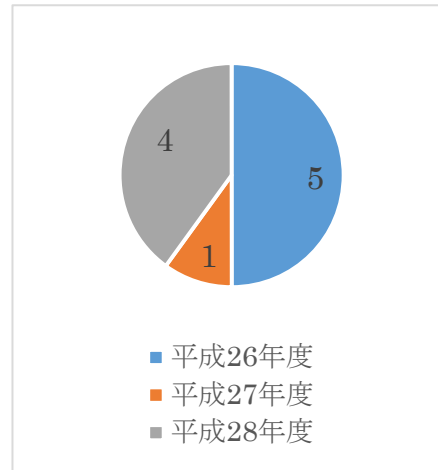


図3 METコール件数の年間推移

表1 2016年度 検査内訳 (全検査数：47726件)

(人)

	透視検査	血管造影検査	CT検査	MR検査	PET検査	核医学検査
検査室1	1747	604	9018	2539	1471	1507
検査室2	1756	991	7256	2763		1307
検査室3		1025	8213	2769		
検査室4				2093		
検査室5				2667		
合計検査数	3503	2620	24487	12831	1471	2814

【実践計画】

1. 中央検査センターの新設を組織機構改正に提案する。
 - 1) 看護部内会議で中央検査センターの設置について協議する。
 - 2) 医療安全部、放射線部に組織機構改正への提案について事前説明を行う。
 - 3) 看護部からの要望として提出する。
2. 組織機構改正で承認されたら、放射線検査（血管造影室、透視検査、CT、MRI、PET、シンチ）を管理する中央検査センターの設置に向け準備する。
 - 1) 現行の医療材料部看護室の業務を移譲し、名称を内視鏡センター・中央検査センター看護室に変更し、看護師長1名・副看護師長2名を配置し兼務で管理する。
 - 2) 業務開始に向けて医療材料部看護室、看護部からなるワーキンググループを設置する。
 - 3) 各診療科で実施されている治療・検査のマニュアルを標準化し、マニュアルを整備する。
 - 4) 侵襲的検査および治療を受ける患者の情報共有のための連絡システムを定める。
 - 5) 中央検査センター運用規定を定め、病院運営会議提案後に病院連絡会議で職員に周知する。

【結果】

1. 組織機構改正に向け看護部協議を行い、中央検査センターの新設を提案した。
2. 組織機構改正提案に向けて医療安全部、放射線部に事前説明を行い、医療安全部と放射線部から中央検査センターの新設に向けて要望書を記入してもらい組織機構改正に提出となった。
3. 組織機構改正に中央検査センターの新設と人員定数化の提案書を提出した。

	現行			中央検査センター新設
	検査室数	看護師	担当看護室	看護師定数
血管造影室	3	3	各看護室	3
透視室	2	2	各看護室	2
CT室	3	2	放射線科看護室	3
MR室	5	1	放射線科看護室	1
核医学検査室	1	1	放射線科看護室	1
PET検査室	1	1	放射線科看護室	1
副看護師長				1
合計		10		12
				5名は放射線科看護室から異動

4. 3の提案が認可されなかったことから、再度提案書を提出した（組織として認可してもらい、人員配置は看護部内で調整する）。

【評価及び今後の課題】

様々な部署からの要望案件であるが、今年度中央検査センターの新設には至らなかった。しかし、中央検査センターを新設し看護師を配置したいとの看護部の意志を示すことはできたと考える。透視室検査を行う部門の医師からは、専属看護師の配置を要望する声が多く聞かれていた。

今年度解決に至らなかった要因として、当院の経営状況がある。新棟建設に係る患者数の減少、医療材料比率の増加から、入院単価は高くなっているが収益では赤字となっている。今後既存棟改築も計画されていることから、経営上困難な状況が続くといえる。経営対策として人件費抑制が行われており、最大人員を抱える看護部においても新規採用看護師の採用抑制が行われていることから、新規事業計画への人員採用は見込めない状況にある。

当院は平成30年7月に新棟移転が計画されている。新棟移転時に実施される病床再編成の機会を捉え、病床再編成による余剰人員を中央検査センターで活用する方向で検討したい。また、検査終了時間から勤務体制を考慮した人員配置計画を検討したい。